

平成28年4月18日

第1回にかほ市総合教育会議会議録

にかほ市

平成28年度第1回 にかほ市総合教育会議 会議録

1. 期 日 平成28年4月18日 月曜日
2. 場 所 象潟庁舎 2階 大会議室
3. 開 会 午後3時00分
4. 閉 会 午後4時20分
5. 出席委員 市長 横山 忠長 教育委員長 大久保 敬一 教育委員 佐々木 郁子
教育委員 吉泉 聡 教育委員 小松 雅子 教育長 齋藤 光正

6. 説明のための出席者

総務部長 齋藤 洋 教育次長 齊藤 義行
総務課長 佐藤 喜仁 教育総務課長 池田 昭一
学校教育課長 木谷 玲子
総務行政改革班長 須田 益巳 教育総務班長 菊地 昌宏

7. 案 件 (1) 象潟地域の小学校統合について
① アンケート調査結果について
② 学校規模適正化検討委員会からの提言について
(2) その他

【開会 午後3時00分】

○事務局（佐藤・総務課長）

みなさんお疲れさまです。ご多忙のところ会議に出席いただき、ありがとうございます。
これより、平成28年度第1回にかほ市総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして、市長よりごあいさつをいただきたいと思います。

○市長

今日は、皆さんには大変お忙しいところ、総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、大久保委員長はじめ教育委員の皆様方には、日頃から学校教育の充実強化、あるいは子どもたちの健全育成等にご尽力いただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

ご承知のようにこの総合教育会議は、地方教育行政の組織および運営に関する法律に基づきまして、昨年8月に初めての会議を開催し、本市の教育大綱の策定などについて協議を行ったところでございます。

さて、にかほ市も少子高齢化が進展する中において、昨年の11月に「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して、今年度を地方創生の元年と位置付けながら、人口減少の流れ、あるいは少子化の流れを少しでも良い方向へと導くための取り組みをして参りたいと考えていると

ころであります。

また、教育現場では、児童生徒が極端に減ってきているので、学校の配置も含めて大きな転換期を迎えているという状況であります。したがって、子ども達が学習面や運動面で力を付けながら社会性を養っていくためにはどうあるべきかなど、将来に向けて様々な角度から議論を重ねて参りたいと考えているところでございます。

いずれにしましても、行政としては、最も大切なことは人づくりでございます。委員の皆さま方とは思いを同じくして、一致協力しながら、今後の教育行政にあたって参りたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げ、開会のあいさつとさせていただきます。

今日はよろしくお願いをいたします。

○事務局（佐藤・総務課長）

それでは、次に教育委員長よりごあいさつをお願いいたします。

○大久保委員長

会を始める前に、一言ごあいさつ申し上げます。

新教育委員会制度の元に設置が義務づけられた総合教育会議、皆さんご存知のように、市長と私たち教育委員会が協議、調整する場としてこの会議は位置づけられておりますが、昨年度の総合教育会議では、にかほ市の教育の振興に関する施策の目標や方針を定める教育大綱を決定いたしました。基本的にかほ市の教育行政は、教育大綱のあるなしに関わらず、しっかり確立されていると考えていますし、市長との連携は、とてもよく意思疎通が行われていると私なりには感じております。

今日の総合教育会議の協議案件は、象潟地域の小学校の統合についてですが、確かに、少子化が急速に進展している中で、この問題に関しては、にかほ市も避けて通れない大事な問題であると考えています。

最近では、皆さんご存知のように仁賀保地域の院内小学校と小出小学校が昨年4月に統合しましたし、その統合に関しても、皆さんの協力を得てうまくできているし、今、院内小学校はスムーズに学校運営が行われていると、私なりには考えています。

先日の魁新聞に、県内の公立の小中学校数が最も多かったピーク時の半数以下になったことや、昨年度から1年間で秋田県の児童生徒数が1781人減少したという記事が載っておりました。にかほ市の平成28年度の児童生徒数が1847人ですので、それを考えると、1年間に県内で、にかほ市の児童生徒数と同じくらい的人数が減少している状況であります。

そういうことを考えると、提言に基づいたことを十分に考えなければいけないのですが、先日、スポ少の会議に参加した時に、親になっていた教え子が統合に関してかなり考えていて、保護者の中に小さくても家庭的な雰囲気の中で、より仲良く行き届いた指導が行われている部分もあるのではないかという話もありました。このような考え方もありますが、諸々のことを考えると、これからの厳しい世の中を生きていくためには、社会性とか社交性を向上させるためにいろいろな考え方に触れることが子どもにとっては大事なことと考えています。

今日の会議ですが、今後の象潟地域の3小学校の方向性を定められればというのが正直なところですので、委員の皆さんからいろいろな意見を出していただきたいと思っておりますので、よろしく

お願いいたします。教育委員会としては、提言も尊重しながらということになると思いますが、十分市当局と話し合いを深めながらやっていかなければいけない、慎重な会になると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ただ、あくまでも、何回も言ひますが、子ども達にとって、親にとって、地域にとって、どの方向が一番いいのか、提言どおりにするのが一番いいのか、その先も考へて子ども達にとって最良の方向を定める会にしていだければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局（佐藤・総務課長）

それでは、この会議に出席しております事務局、並びに出席者の職員を紹介したいと思ひます。
～各出席者を紹介～

それでは、これより協議事項、案件の協議に入ります。進行につきましては、にかほ市総合教育会議設置要綱第5条の規定によりまして、市長が会議の議長となりますので、この後の進行につきましては、市長よりお願ひいたします。

○議長（市長）

それでは、進行を務めさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願ひをいたします。

4番目の協議事項ということで、(1)象潟地域の小学校統合について、①アンケート調査結果について事務局の方から説明をしてください。

○事務局（池田・教育総務課長）

資料により説明

○議長（市長）

アンケートに対する事務局の説明が終わりましたが、このアンケート調査結果について、ご質問等ございましたら、各委員の皆さんからご発言をしていただきたいと思います。

私から言うのもなんですが、アンケートそのものが、年代の高い、自分たちの子どもでない年代の人の回答が多いわけですが、その中で内容については具体的に回答しているものの、その点では抵抗がないものだろうか。若い自分たちの子どもがいる世帯のお父さん、お母さんが回答しているのであればいいが、50歳、60歳のお孫さんの世帯のおじいちゃん、おばあちゃんが回答しているものがどうなのかなと思ひました。このアンケートは郵送したのですか。

○事務局（池田・教育総務課長）

はい、全世帯に郵送で調査いたしました。

○議長（市長）

やはり、全世帯ということだからですか。

○事務局（池田・教育総務課長）

はい、そうです。

○議長（市長）

もう一方でPTAの人からのアンケートをしてもよかったのでは。

○事務局（池田・教育総務課長）

はい、そういう考えや、意見もあったのですけれども、やはり象潟全地域の意見を集約したいということで、世帯主名で郵送はいたしましたけれども、依頼文書の中に「お子さんがいる世帯では、ご両親の内どちらかが記載してください。」と太字で大きく書いていたのですが、それを見逃してしまった世帯が多かったのかなと思っています。

○議長（市長）

何かございませんか。佐々木委員何かございませんか。

○佐々木委員

アンケートを見ると、統合にすごく意欲的ですよね。上郷地区が統合に賛成が少し少ないという点もありますが、でも、自由回答を見ると、例えば新校舎建設という意見が多数あるので、やっぱり防災について不安に思っている方々がいるということなので、新校舎建設に目を向ければ、考え方も変わってくるのではないかと思いました。

○吉泉委員

事前に教育委員会で確認をする機会があったので確認漏れなのですけれども、先ほどの市長さんの話との関連で、20代、30代の方が統合すべきである、やむを得ない、統合しない方がいいというクロス集計はされていますか。

○事務局（池田・教育総務課長）

いえ、そこまではやっていません。

○小松委員

このアンケートをちゃんと注意書きでお子さんのいる方に書いてくださいと書いたにもかかわらず、お家の家長の方が書かれたというのは、もしかしたら若い人たちはそんなに関心がないのかなと。そのお家の中でお父さん書いておいてと若い人が言ったのかもしれないし、もしかしたら関心の薄さが出たのかなという気がします。

でも、地域の方々がこれだけ子どもがいないにもかかわらず、熱心にいろんな自由回答を下さったということは、みなさんの関心が高いということだと思うので、みんなに良くというのはできないけれども、先ほど佐々木委員がおっしゃったとおり、統合した場合に具体的にこうするので心配しないでくださいということを示すと、今まで反対、かわからないとおっしゃった方々も、それならば協力しましょうとおっしゃって下さるかもしれないので、これからのやり方でうまく運ぶのではないかと思います。

○大久保委員長

まずは学校規模適正化検討委員会から出された提言を、このまま委員会として尊重していくという方向にするのか。今この提言や出されているいろいろなものを見てみると、現在の象潟小学校に統合する、子ども達を集めることを基本にして提言している感じがします。学校を新しくすると、その提言どおり親たちが納得してくれるのかなと思いました。

○議長（市長）

それでは、②の学校規模適正化検討委員会からの提言書の内容に進んで、その説明を聞いてから総括的な形で皆さんの意見を聞きましょう。そうでないと、アンケートのことを聞いても、結局は提言書の内容に入ってってしまうので、提言書の説明を聞いて、最終的に総括的な形で、アンケートはアンケート、提言書は提言書の中でいろいろご意見をもらいましょう。

では、2つ目の学校規模適正化検討委員会からの提言について、説明してください。

○事務局（池田・教育総務課長）

資料により説明

○議長（市長）

ありがとうございます。いろいろ課題もある訳ですが、私が発言すると何も意見が出なくなると思うのであまり言いませんが、私たち行政からすれば、当然象潟地域の統合も考えて行かなければならないし、仁賀保地域の統合も、釜ヶ台小中学校は院内に統合して、小出小学校も統合したという形の中で、当然、仁賀保の方も考えて行かなければならない。私の基本的な考え方は、まず最初の統合の段階は大きな学校に統合すると。そして、校舎が必要だという段階であれば、その時点でいろいろ議論した方がいいのではないかなと。今の段階から統合即イコール新しい校舎というのはちょっと考えにくいなと。当然、学校一つ建てると言って、20億円、30億円の世界になってきた時に、市の財政が追い付いていけるのかどうかと。要するに、お金を借りて学校を建てるのはいいのですが、その後お金を返すのに他の事業をやれないという環境では、やはりなかなか難しいと思います。

議題と関係ないですが、今日配付させていただいた資料の中で、市の財政関係の資料の中に、この後に説明してもらおう予定の学校サポートの28年度の予算についても載っていますが、これを一通り教育委員のみなさんにも市の財政がどうなっているのかということを知っていただくために、参考資料として私の方から少し説明しようかと思い、配付しています。これは各自治会等で行政懇談会をやっているのですが、その際に提示して説明している資料です。

まあ、そういう考え方からすると、なかなか新しい学校を造って、いい場所に駐車場も何も広いところに建てるのが一番いいんでしょうけど、そういうことがなかなか出来ない状況にあります。それからもう一つ、この提言書の中に当然ありますけども、院内、小出小学校の時もそうでしたが、ある学校を使って欲しいということがなかなか難しいわけです。これも後で説明しますが、私が説明した後にご意見をもらいましょうか。

では、市の財政について、若干説明いたします。

1枚目、これは平成28年度の予算です。学校も含め、一般行政サービスをするための一般会計

が134億5千万円、27年度より20億円ちょっと少ないのですが、これは今建設しているごみ焼却場（熱回収施設）の事業が進捗していること、それから、道の駅象潟に観光拠点センターを造ったのですが、4月9日にグランドオープンして事業が完成したこと、合せて20億円くらい減っているわけですが、にかほ市の全体事業費は5億2千万円ですが、大きいのはごみ焼却場で、全体事業費は40億円を超えるので、そんな形の中で134億5千万円でスタートしています。

次のページをご覧ください。134億5千万円のうち、にかほ市の裁量で集めることのできる自主財源というのは全体で26%しかありません。この35億400万円のうち、みなさんや企業から頂いている税収というのは、その全体の19.3%しかありません。28年度は個人市民税が若干伸びておりますから2300万円ほど増えておりますが、税収というのはこれから伸びる要素はございません。人口がどんどん減って行って、経済が縮小していく中では税収が増えていくことは当然ありません。ですから、こういう状況の中で依存財源というのが全体の74%で99億4500万円。一番大きいのが地方交付税で、こういう形で国や県に依存しているわけです。ですから、この形がずっと続けば何も問題はないのですけれども、この地方交付税が合併11年目から減らされていきます。16年目には大体私たちの試算では単年度8億円減らされるとみています。これは当初、県の試算では12,3億円という試算であったのですが、当然この削減に対応していく行政運営をするためにはどうするか。サービス水準を低下させないためにはどうするかという形では、やっぱり行財政改革をやって、特に職員数、職員数は合併当初からみれば80人減らしています。要するに行財政改革をやっていきますけれども、他にもやっていますけれども、これで何とか削減される8億円には対応できるのかなと言うくらいまで行財政改革を進めています。

それで、今年全国的にですが、現在各市町村が持っている公共施設を将来的にどうするのかということ今年中にまとめて国に出さなければなりません。何も改革をやっていない市町村に対しては当然国でも支援策は講じてくれないわけです。にかほ市では、古くなったものの解体に国からの将来的な財政補填をするような起債も設けて欲しいと話をしています。例えば公民館も3つあるわけです。にかほ市の場合は、公共施設は全部耐震補強をしていますけれども、これを将来的にどうするのか。何年後には一つにしますとか、こういう計画を今年中にまとめて、市民のみなさんにも話をして、国に出さなければなりません。

先程も、新しい学校を造って欲しい、あるいは空いた校舎は何かに使ってくださいというのであれば、当然行政的なお金はいくらあっても間に合いません。ですから、私は議会に対してもその空いた校舎を民間で使うような形であれば、無償譲渡でもいいと思っています。工場でもなんでも。行政でも使いたいというものもあります。このことも十分に市民のみなさんから理解をしていただいて、新しい校舎或いは古い校舎でも市が維持していくのが困難な時代になっていることを広く市民のみなさんにPRしながら理解してもらうことが大切だと思いますが、広報には結構書いているんですけれども、なかなか広報を見てくれないということもあります。いずれにしても、こういうことをPRしていかなければならないということで、今まで各自治会の行政懇談会でも必ずこの話を出しています。ですから、今年の予算では保育園の保護者の負担をこれくらい軽減しますとか、今の広報にも書いていますが、そういうことを説明しています。

私としましては、象潟地域の小学校統合も平成30年でいいのかどうか、もう少し反対のみなさんの話をもっと聞きながら、30年度をめどにしてもいいのですが、私としてはみなさんからの賛同もいただきながら象潟小学校に統合しかないなと今の段階では思っています。

グラウンドは確かに狭くて、P T Aになるとグラウンドに駐車することになりますが、これは付近に土地があればいいのですが、まずは現状で仕方ないのかなと。ただ、地震、津波についても象潟小学校は防災教育推進モデル校になっていて、回りの地区の皆さんも小学校の体育館の屋上に避難します。あそこは標高で15mくらいありますので、今、想定されるにかほ市の津波の最大が10.1mです。これは地形によって若干上がる場合や低くなる場合もありますが、今モデル地区となっているのは小砂川で、あそこが湾になっていて10.1mです。ですから、にかほ市の場合は県の公表では津波の高さは10.1mを超えるような場所はありません。体育館の屋上の標高が15mですので、十分地区の皆さんもあそこに避難すれば避難できる高さであります。それから夜間であっても、震度5以上で開くようなキーボックスを設置して中に鍵を入れているので、それで校舎の中に入ることができるようになっていきます。

上郷、上浜の方には地震、津波や海岸に近いということで心配だということですが、これは上浜も象潟も同じですよ。上郷は標高が高いので別ですが、当然これから子ども達を象潟小学校に統合させるというのであれば、スクールバスになるのか、コミュニティバスという形でコミュニティバスとスクールバスを合わせた一般の方も乗れるという形なのか、あとは路線バスになっていくとコミュニティバスはできないので、スクールバスにせざるを得ないのか、この点も十分に検討して、今の釜ヶ台もコミュニティバスにして一般の方々も乗れるようにしていますので、そういう形の方が私はむしろいいのではないかなと思っています。当然そういう配慮もしなくてはなりません、いずれにしても、上浜、上郷の保護者のみなさんからどう理解してもらおうかということだと思います。方向性が若い人からの回答が少ないアンケートではありますが、7割方賛成であるとするれば、普通はこの方向に進むしかないのかなと思います。ただ、新しい学校を建てるというのは今の段階では考えてはおりませんが、統合する前に5億円くらいかけて、平沢小学校であれ、象潟小学校であれ、統合する場合は改修をすることにしています。耐震はやっているの、内外装の部分と壁を取って多目的教室みたいな形にする場合もありますが、象潟小学校はそれができているので、状況を見てどういう改修をするかではありますが、今の段階では、各学校の改修は予定しています。新しい学校を建てるという財政シミュレーションはしていません。

ざっくばらんに申し上げましたが、あとは委員のみなさんからお話を聞いて、30年度に統合するのか、象潟小学校に統合するのか、そのあたりもご意見を出していただきたいと思います。

○大久保委員長

今の市長からのお話をお伺いして、大規模改修をするにしても5億円ほどのお金を準備しているとのことですが、どうしてもひっかかるのが、この提言された30年度を目途にということが若干無理があるのではないかと思います。もうちょっと考える余地があるのではないのかなと。ただ、考えないでその提言どおり30年度を目途にがんばりましょうということになれば、またそれはそれで考えなければいけないと思います。ただ、何回も言いますが、この提言された30年度から延ばす時に、納得できる延ばす理由を今市長がおっしゃったことのようなことでまとめていて市民に分かってもらうことが一つと、30年度から延ばすことになるという、どうしても複式学級が解消にならない学校が出てきますので、複式学級を解消するための予算をどこで確保してくれるのか。市で確保していただけたら、それはそれでいいのですが。

○議長（市長）

今年の状況はどうなっていますか。

○事務局（齊藤・教育次長）

（複式解消のための教員を）県から配置していただくことになっております。今年はまだもう一度ということとなっておりますが、来年からは厳しいとしか言いようがないです。

○議長（市長）

今、（非常勤講師として）市単費で雇用しているのは、何人の先生ですか。

○事務局（齊藤・教育次長）

5人の教員です。

○大久保委員長

複式もそうですが、いろいろなことを総合的に考えると難しいのではないかと思います。教育長はどう考えていますか。

○齋藤教育長

私は、まず提言どおりに進めていくべきだと思います。

その理由の一つ目として、院内小学校と小出小学校は、平成21年度の提言どおりに統合しています。もしも、象潟地域の統合が提言どおりに進まないとなれば、仁賀保地域の人々は黙っていないということです。

そして二つ目として、平成29年度から上浜小学校は複式学級が始まります。複式を解消し、上浜小学校の子どもたちの将来的な学力を保障してやらなければならないという思いからです。上郷小学校は来年度も15人学級になるので、県教委の配慮があると思いますが、上浜小学校の複式解消は、市の予算で非常勤講師を配置しなければならなくなります。

三つ目として、私たち教育委員会としては、平成30年よりもちょっと遅く、平成32年でもいいのではないかと思います。委員の方々の意見が30年ということが強かったということです。

これから、各地区で説明会を開きますが、「どうしても納得できない」という意見が多かった場合は、再度総合教育会議で検討し直すことも必要だろうと思います。しかし、合意するまで話し合いを重ねていくことが大切だろうと思います。どうしても合意ができない場合は、合意した地区から順次統合することも考えなければならないと思います。

ただ、昭和34年に上郷中学校が象潟中学校と統合し、19年後に上浜中学校が統合したのですが、その当時の先輩たちは「やはり一緒に統合した方が良かった」と言っていました。だから、できるならば順次統合ではなく、一緒に統合したいものだと思います。

いろいろな考え方はあると思いますが、一つの方向として、このまま提言どおりに進んでいくべきだと思います。

○小松委員

先程のアンケートを見ても、賛成の方々の意見なので一概に言えないかもしれませんが、どうせ統合するのであれば少なくとも平成 30 年までとおっしゃる方が半数を超えているので、どうせ一緒になるのであれば、最初から 30 年ということを提示していたので、それを守るというのも変ですが、できるだけ努力して統合してあげた方が住民の方たちも、嫌々な方も含めて納得できるのではないかと思います。

○吉泉委員

私も今までの委員のみなさんのお話であつたとおり、アンケートの結果を見ても、まず統合については、一番少ない地区でも 75 パーセント、全体で 82 パーセント近い方々から統合すべきと、あるいは統合やむなしということで了解を得ているわけですし、統合の時期も平成 30 年より前、平成 30 年というのが併せて 50 パーセントを超えているという状況でもありますので、なるべく手続きが間に合えば平成 30 年をめどに統合をするということが求められていると思います。

平成 21 年の学校教育将来構想策定委員会の提言で院内小学校と小出小学校は平成 27 年度をめどに、象潟地域の小学校は平成 30 年度をめどにと、この提言をきちんと守って準備をすることは非常に住民と教育委員会との信頼関係を構築するということに繋がるとと思いますので、それを踏まえて平成 30 年を目標に統合するというのが私自身の見解です。

○佐々木委員

私も同じなのですが、複式学級というのは今の子ども達にとってはとても大変だし、できれば多くの友達といっぱい勉強していただきたいというような思いが強いので、できれば早く学校の定員を増やしてもらって、一日も早く統合した方が子どもたちのためになるのではないかと思います。

みんな一緒のかほ市なのですが、ふるさとに対する個人的な考えで、自分の学校が無くなるということが、小さな考えでしょうけれども、そこら辺を統合した時には、上浜、上郷、象潟も同じだという考えで行けたらと思います。この 30 年度をめどに統合を進めていただきたいと思います。

○議長（市長）

ありがとうございます。いろいろなご意見はございましたが、基本的な形としては、象潟地域の小学校については、30 年度を目標にして統合を進めていくということを前提にしながら、それぞれの部局で整備を進めていくと。市長部局については、それなりの予算というものもありますし、改修が必要なところは改修をしていかなければならないし、場合によっては、周りのどこかに駐車場として貸してもらえそうな用地があるとすればそれもありですし、例えば近くの児童公園のところは P T A などの時に一時的に使われないものか。

○事務局（齊藤・教育次長）

この前から見ていたのですが、警察署の裏の部分は運動広場ということで赤土になっているのですが、表土を改良すれば駐車場として使えるのではないかと思います。

○議長（市長）

そのあたりも含めて、そういう形の中で地域に入って、教育委員会は教育委員会としての進め方をしていくと。ただ、それぞれの地域で反対する方がいるとすれば、それはある程度時間を置きながら、1年遅らせてもやむを得ないのではないかなと思いますので、方向性としては今の形で進みたいということで、この会議で決めてよろしいでしょうか。

結論をやむやみにしていけば、いつまでも見えないので、方向性としては、象潟地域の統合については、この総合教育会議では30年度をめどにして統合を進めていくということによろしいですか。

○全委員

全員異議なし

○議長（市長）

話し合いの中で、学校の改修ということについては、来年の夏休みに改修をしないと間に合わないということになりますよね。その前に設計をして。だとすれば、平成29年度に予算をおいて、夏休み中に大半の工事をして、それでも若干残れば冬休みの期間を使いながらも改修していくということしかないと思います。

いずれにしても、象潟小学校の耐震工事は終わっているので、小体育館の改修などいろいろあると思います。

まとめとしては、これによろしいでしょうか。

それぞれの形で統合に向かって進んでいくと、そしていろいろな市民のみなさんから意見を聞いて、それでなかなか難しい感じであればもう少し時間を置きながら協議を進めていく。方向性としては、象潟地域は平成30年をめどにして統合を進めていくということです。

例えば、将来的に新しい校舎を建てて、例えば仁賀保地域の小学校を小中一貫校として、今の仁賀保中学校の辺りに小学校をもってくるという考えはあるものですか。

○小松委員

それは言っている方もいらっしゃいます。

○議長（市長）

平沢地区の人たちは、今の場所から移転することに猛反対するのではないかと思うのですが。

○小松委員

年配の方は分かりませんが、平沢小学校の建物は、水周りもあまりよくなくて直さなければいけないので、そうなると高さは十分なんですけど、心理的に海が近いので、この前の津波の後に不安だということで、中学校の所に行くのではないかという若いお母さん方もいるようです。

○議長（市長）

統合した時の教育というのかもしれませんが、学校の登下校なんですよ。学校にいる時は高い所があるのでいいですが、バスを利用している子どもたちも何かあったら高い所に行くということをきちんと決めておかないといけないと思います。東日本大震災の時みたいに保育園児が犠牲になる場合もあるので、その途中（登下校）のことも教育していかなければならないと思います。

では、この件については、これでよろしいでしょうか。

○全委員

よろしいです。

○議長（市長）

では、次の案件、その他ということで、学校生活・学習サポートについての現状などについて、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局（木谷・学校教育課長）

資料により説明

○議長（市長）

事務局の方から学校生活・学習サポートについての説明がありましたが、何かございましたら、ご発言をお願いいたします。

どの市町村でも対象児童の出現率が4パーセント程度ですか。

○齋藤教育長

それくらいいます。

○事務局（木谷・学校教育課長）

説明をしますと、通常6パーセント程度いてもおかしくないと言われていています。普通の学級に6パーセントいるであろうというデータもあります。

○齋藤教育長

由利本荘市と違うところは、こんなふうにサポートを30名もいただいているのですから、それを学校現場に対しては当たり前だと思わないでくださいと。このとおり市の予算の中で、学校の体制を整えるために、学級の安定や学級づくりとか授業をしやすい学級をつくるために、市の予算があるので、当たり前だと思わないで、それを活用する、そして工夫する、そういう努力をしてくださいという指示をしております。

もう一つは、この学校生活・学習サポートの質的向上です。ただ教室にいるのではなく、どのように支援したらいいのか、サポートのみなさんも学校の校長先生をはじめ担当の先生方も、そこを研修しなければならないのです。研修をして初めて子ども達に有効に活用できます。年に2回秋田

大学と連携を取りながら、この生活サポートの情報交換と研修をしながら、質的に高めているところが由利本荘市と違うところであります。

○議長（市長）

秋田大学との研修は年に2回ですか。

○齋藤教育長

年に2回です。今までは子どもとなかなかうまくいかないとか、校長先生や担任の先生とうまくいかない、誰にも言えずに自分で悩んでいる生活サポートの方もいたんですが、こういう研修会を通して、私だけじゃなくてあなたも悩んでいるのかと、こういう場合はこうやった方がいいんじゃないかと、お互い情報交換をしてから、お互いにやる気を出し、またはお互いに悩んでいたところが、悩まずに進んでいけるということで、大変いい研修だとサポートの皆さんからは言われています。

学校教育課長、実施時期についてお願いします。

○事務局（木谷・学校教育課長）

研修については、1学期末と2学期末に行っています。1学期末は、初めて子ども達に向かってどうであったかということのを反省しながら、その反省を1学期末に収めて、そして2学期また改めてがんばっていきましょうということで進めていきます。2学期末もやはり同じようにこれまでの経過についての研修を行っていきます。そして、学校の中においては、校長先生たちも、あるいは学級の先生方も研修を積みまして、学校の中では特に月一回、校長室で、あるいは会議室で生活サポート職員を集めて、どういう状況なのかということのを管理職が確認をしているケースもあります。それから、生活サポート職員が日々日誌をつけて子ども達の状態を記録して、それを学級担任に報告するというようなケースを取っている学校もあります。

学校に応じて、やりやすい、よりよい状況をつくるために、子ども達のために、工夫をしているということのを伺っています。

○議長（市長）

この資料の中で、象潟地区では中学校へ進学する際に、特別支援学級に在籍していた児童が中学校では普通学級への進学を望むケースが出ているということですが、他の二つの学校ではどうですか。仁賀保中学校や金浦中学校では普通学級に行かないで、たとえば養護学校に行くというような形態もあるのですか。

○事務局（木谷・学校教育課長）

はい、仁賀保中学校、金浦中学校においては、子ども達が進学するにあたって、ゆり支援学校に行く子どもさんもいれば、中学校にある特別支援学級、あるいは新設をお願いして特別支援学級に入級する子ども達もおります。ところが、上浜小学校、あるいは象潟小学校から進学する子ども達の中で、大変手厚く指導をしていただいて自信がついたのか、象潟中学校では通常でがんばってみようという保護者もそれを勧めるケースがあります。となると、そこにはやはりそれまでと

のギャップがありますので、生活サポート職員が欲しくなるわけです。そこで何とかお願いしなすと言われるので、配置するというケースがあります。

象潟中学校にはきちんと情緒学級も、知的障害学級もあるわけですが、それとは別に支援が必要となるわけです。

○議長（市長）

他に何かございませんか。

○大久保委員長

委員のみなさんも一緒に学校訪問をしたり、いろんな時にこのサポートしている職員の様子はゆっくり、じっくり見ることがあると思いますが、子ども達が確実に成長しているし、落ち着きが出てきて学習に取り組む姿になっているのは、このサポート職員の努力だと思いますが、そのサポートをしてくれる職員方が、自分の仕事とかいろんなことを含めながら子ども達と日々努力している姿だけは、見ていてもらえればと思います。

これだけの人数を予算化してもらっているというのは、委員会としては、子ども達に確かな成果を残さなければならない責任があると思うので、その点を含めながら、今はサポートの職員がしっかり頑張っているということの評価しながら、教育委員会としては、今後も応援していきたいと思います。

委員のみなさんも分かっていると思いますが、意外と隠れている子ども達が、入学してから、進級してから出てくる場合があって、それで苦労しているところもあるかもしれないし、いろんな応援をしなければいけないと思います。

教育長もおっしゃったように、市長にお願いしたいのですが、この職員の数を減らさないようにしながら、しっかりした成果を教育委員会としては上げていかなければいけない。その責任はあると思います。

○議長（市長）

このサポートの中には、身体がものすごく不自由で、人の手助けを借りなければ学校生活を送れないという子どももいますか。

○事務局（木谷・学校教育課長）

そこまで重篤な子どもはおりません。

○議長（市長）

委員長が教育長をしていた時に象潟小学校で始めたんですが、その時に一人では生活できないような子どもがいましたね。

○大久保委員長

あの子は、本当に医療のサポートがつかないといけないということで、最初に市長にお願いをして、ゆり養護学校から職員に来てもらって、つけていたのですが、それでも難しかったです。

○事務局（教育次長）

それでも、卒業する時にはかなり表情が豊かになっていました。

○大久保委員長

それはそうでした。サポートというのは思ったよりも先生方と一緒に、いわゆる学級の担任の先生と一緒にやる以上に、かなり子ども達の気持ちに変化を作ってくれるいい制度だと思います。

○議長（市長）

その他何かありませんか。

なければ、この辺で終了したいと思いますが、いずれにしましても、委員のみなさんと当局が考えを一つにしなから、子ども達の育成について力を合わせて頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

○事務局（佐藤・総務課長）

それでは、長時間に渡り、ご協議大変ありがとうございました。今後の総合教育会議の開催の予定については、現在のところ予定はございません。協議する事項が生じたならば、その都度ご連絡を差し上げたいと思いますので、その節にはよろしく願いしたいと思います。

それでは、これもちまして平成 28 年度第 1 回にかほ市総合教育会議を閉会いたします。